



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2016.12) 平成28年度:3-4.

感染予防対策としての適切なマスク着用に影響する関連要因

石上 浩平, 佐々木 将年, 佐藤 光

感染予防対策としての適切なマスク着用に影響する関連要因

石上浩平 佐々木将年 佐藤光
(指導：一條明美)

緒言

マスクの着用はもっとも一般的な感染予防対策として知られており、インフルエンザウイルスなどの飛沫感染対策としてマスク着用が励行されている¹⁾。看護師のマスク着用における実態調査の研究では、本来の感染予防の目的でマスクを着用している場合以外にも、アレルギー、身だしなみ、勤務体制などが関連し、感染予防以外の目的で看護師がマスクを着用している場合があるという実態が明らかにされている²⁾。このことから、看護師と同様に看護学生も臨地実習において、感染予防以外の目的でマスクを着用していることがあるのではないかと考えた。

本研究の目的は、看護学生の実習におけるマスク着用の実態とその関連要因を明らかにすることである。

方法

【研究対象】看護系大学3、4年に在籍する計 186 名、3年課程看護専門学校2、3年に在籍する計 193 名の合計 379 名を対象とした。

【データ収集方法】感染予防に関する一般的知識及び、森井ら³⁾、西館ら⁴⁾の研究を参考に、独自に無記名自記式質問紙を作成した。研究対象に当たらない看護学生4名にプレテストを行い、平均回答時間の把握や修正をしたのち実施した。調査は集合法で行った。

【調査内容】対象の基本属性(性別、教育課程、学年)、「実習中の感染予防のためのマスク着用に対する行動」(13 項目)、「自身のマスク着用について」(14 項目)、「感染予防のためのマスク着用の知識」(11 項目)の計 38 項目で選択回答式を用いた。

【分析方法】質問紙の結果から得られたデータを単純集計し、クロス集計、 χ^2 検定を行った。

「一度外したマスクを再度着用したことがある」(以降「再利用」)、「マスクを顎下に下ろしながら話することがある」(以降「顎下着用」)など不適切なマスク着用について『よくある・ときどきある・あまりない・ほとんどない』の選択回答とし、これを目的変数とした。

長期間実習の有無(以降「実習あり群」「実習なし群」)、感染予防以外の目的でのマスク着用(以降「目的外着用」)、感染予防の知識の有無(以降 9 点以上を「知識あり群」、9 点未満を「知識なし群」)を説明変数とし、二項ロジスティック回帰分析を用いて分析した(図1)。有意水準は 5%未満とした。

【倫理的配慮】本大学の倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号:16098)。調査の目的や方法に加えて、協力は自由意志であり、協力の有無にかかわらず調査の協力者に不利益が被ることがないこと、また、データは個人の特定ができないように無記名

の質問紙を用い、回答が得られた情報は本研究にのみを使用し、研究終了後は速やかに裁断処理し破棄することを文書と口頭で説明した。

結果

1. 質問紙回収率と有効回答数・対象者の属性

質問紙回収数 374 人(回収率 98.7%)、有効回答数 310 人(82.9%)であった。長期間実習を行ったことがある者 166 人(大学 4 年、専門学校 3 年)、ない者 144 人(大学 3 年、専門学校 2 年)であった。

2. マスク着用と感染予防知識の実態

不適切なマスク着用について『よくある・ときどきある』は、「再利用」117 人(37.7%)「顎下着用」98 人(31.6%)であった。目的外着用をしたことがある学生は 234 人(75.5%)であった。そのうち「再利用」は 98 人(31.6%)、「顎下着用」は 84 人(27.1%)であった。「知識あり群」は 211 人(68.1%)であった。

3. 不適切なマスク着用との関連

不適切なマスク着用が行われている理由(複数回答)は「手近にマスクがないため」(52.4%)「まだ使用できるのに捨てるのがもったいないと感じるため」(42.2%)であった。

長期間実習の有無との関連では、実習あり群に不適切な着用が多く、実習あり群となし群に有意差があった。(「再利用」 $P<0.001$ 、「顎下着用」 $P=0.03$) (表 1)

目的外着用との関連では、目的外着用をした学生に「再利用」「顎下着用」が多く、目的外着用をしていない学生との間に有意差があった。(「再利用」 $P=0.008$ 、「顎下着用」 $P=0.004$)

4. 長期間実習の有無と目的外着用との関連

実習あり群に目的外着用が多く、実習あり群となし群に有意差があった。(P=0.024) (表 1)

目的外着用の理由(複数回答)は「化粧、髭などの身だしなみが整っていないため」が最も多く 138 人(59.0%)、「体調がすぐれない」119 人(50.9%)、「アレルギー症状の予防」98 人(41.9%)であった(図2)。最も多い「化粧、髭などの身だしなみが整っていないため」は、実習あり群 68.6%、実習なし群 49.1%で有意差があった。(P=0.002)

5. 感染予防の知識との関連

不適切なマスク着用・目的外着用・長期間実習の有無と、知識との関連で有意差はなかった。

考察

1. 感染予防の知識との関連

感染予防の知識の有無と目的外着用、不適切なマスク着用において関連性は見られなかった。よって、看護学生は講義において感染予防に関する知識を

習得しているにも関わらず、習得した知識は「適切な目的や方法でのマスク着用」という行動には結びついていないことが考えられる。また、知識が行動に結びついていないのは、学生の感染予防に対する認識が不足していること、つまり感染に対する危機感の不足やマスク着用への慣れが生じていることが原因と考えられる。

2. 不適切なマスク着用の理由

学生がマスクを不適切に着用する主な理由として「手近にマスクがないため」「まだ使用できるのに捨てるのがもったいないと感じるため」が多かった。これは学生が実習施設のマスクを使用することに対して抵抗があるためではないかと考えた。実習あり群の方が不適切なマスク着用の割合が高いことから、実習を行っている学生は院内感染のリスク因子になりえる。山内ら⁴⁾はマスク着用によって院内感染を防止することで、マスク費用は安価であることから病院における費用対効果が極めて高いものになっているとしている。そのため、実習を行っている看護学生が適切にマスクを着用することは、病院側にも良い影響をもたらす。看護学生は積極的に正しいマスク着用をすることが求められると考える。

3. 長期間実習の有無と目的外着用との関連

実習あり群は目的外着用をしていることが多く、その中でも「化粧、髭などの身だしなみが整っていないため」という理由で着用している学生が多かった。奥ら⁵⁾は臨地実習における看護学生のストレス内容と睡眠時間の関係について、睡眠不足群で高いストレスが見られ、その要因として看護師との関係、患者や患者家族との関係、実習記録に関することが挙げられると述べている。このことから、長期に渡る実習を行っている学生は、学内での講義や演習と比較して、対人関係が多岐にわたること、記録の整理、自己学習などが多く時間の制約があることで、精神的ストレスがかかる状況であることが考えられる。それに伴い、身だしなみを整える余裕がなくなることから身だしなみが不十分になってしまい、その不足を補うためにマスクを着用していることが多くなるのではないかと考えた。また、実習あり群は、実習なし群に比べて不適切な着用が多く見られた。マスク着用が目的外着用であることから、再利用・顎下着用といった不適切なマスク着用が行われていることが考えられる。

西館ら³⁾は保育者のマスク着用状況やマスク着用に関する認識について、6割を超える保育者がマスク着用によって「声が届きにくいこと」「保育者の表情が子どもに伝わりにくいこと」など業務に支障が生じた経験があると答えていた。看護師においても感染予防以外の目的でマスクを着用することは「患者に声が届きにくいこと」「患者に対して看護師の表情が伝わらないこと」など看護援助に支障が生じることが考えられるため、適切なマスク着用が行えているとしても、感染予防以外の目的でのマスク着用は適当でないと考えられる。

表 1 長期間実習の有無と不適切なマスク着用・目的外着用

		長期間実習の有無	
		実習あり群	実習なし群
再利用	ある	74 (63.2%)	71 (36.8%)
	ない	43 (36.8%)	122 (63.2%)
顎下着用	ある	58 (59.2%)	87 (41.0%)
	ない	40 (40.8%)	125 (59.0%)
目的外着用	ある	118 (81.4%)	116 (70.3%)
	ない	27 (18.6%)	49 (29.7%)

*P<0.05

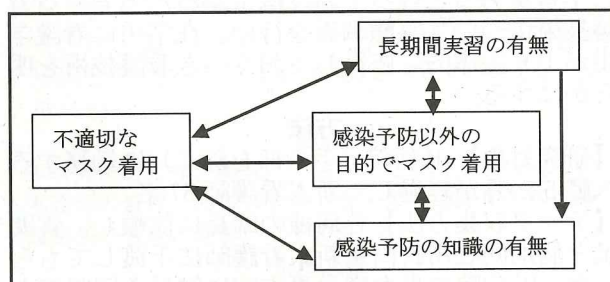


図 1 概念枠組み

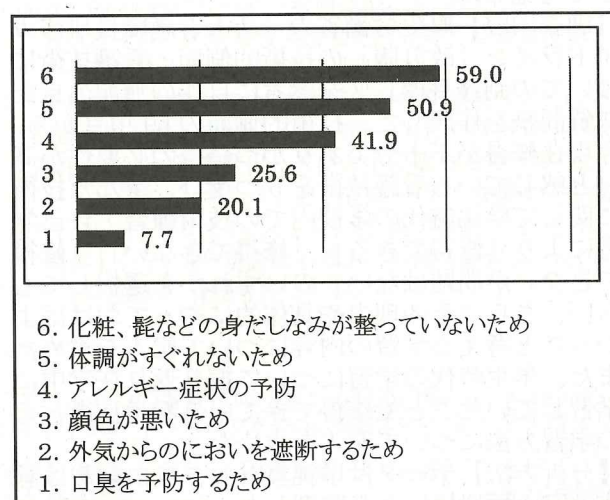


図 2 目的外着用の理由

謝 辞

本研究に当たり調査に御理解・御協力していただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

参考・引用文献

- 1) 厚生労働省, 新型インフルエンザ対策ガイドライン, <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/pdf/090217keikaku-09.pdf>, 127-142
- 2) 森井美代子, 飛川真菜, 上田香織他(2013): 看護師のマスク装着における実態調査, 第 43 回日本看護学会論文集 看護総合, 95-98
- 3) 西館有紗(2016): マスク着用が保育に及ぼす影響に関する保育者の認識, 人間発達科学部紀要, 第 10 巻第 2 号 125-130
- 4) 山内勇人, 河野恵, 大西誠(2006): インフルエンザ院内感染対策としての予防的マスク着用の有用性, 環境感染, 81-86
- 5) 奥百合子, 常田佳代, 小池敦(2011): 看護学生の臨地実習におけるストレスと睡眠時間との関連, 岐阜医療科学大学, 紀要 5 号